

# 親 鸞 思 想 の 解 明

日 時： 第114回 8月20日（月）18：30～20：30 ビジョンセンター東京703  
（会 場） 9月は休講いたします

第115回 10月 1日（月）18：30～20：30 東京国際フォーラムG棟502

※ご参加の予約は不要です。（受付18：00～）

なお、満席の場合には先着順となりますのでご了承ください。（定員：80名）

※会場案内図は裏面をご覧ください。

講 題： 浄土を求めさせたもの一『大無量寿経』を読む一

講 師： 親鸞仏教センター所長 本多弘之

テキスト： 『真宗聖典』〈ご希望の方は、東本願寺出版（下記）までご注文ください。〉

TEL 075-371-9189 FAX 075-371-9211

●インターネットでの書籍のお求めは、

URL <http://books.higashihonganji.or.jp>

TOMOぶっく

検索

click

聴講料： 無 料

※ 講義（問題提起）後、ご参加の方々との質疑応答の時間を設けております。  
お気軽にご参加ください。

## 講座開設の趣旨

現代文明の溢れる人間社会を<sup>あふ</sup>生きているものにとって、入手できる情報の範囲はずいぶん広がってはいる。しかし、生まれてから死ぬまで、それぞれの人が与えられる自己の状況に、自分自身が納得し、<sup>うなず</sup>こころから領けるかというなら、決してそうではない。一般的な条件と、ことさらに自分に起こってくる事件や事実との間には、どう考えても不条理だとしか考えられない落差が出てくるからである。その落差を、<sup>しゆくごういんねん</sup>仏教的表現では「宿業因縁」と教えるのであるが、この宿業因縁を自己に必然の事実であると引き受けることは容易ではない。

その<sup>ひ ゆ</sup>落差の条件を比喩的に表現するなら、「<sup>かなた</sup>届かない彼方」とか「見えざる背景」とか、あるいは「自己に<sup>ごうほう</sup>負荷されている祖先の業報」というのであろう。これは、<sup>ふんべつ</sup>理知分別の計数には決して翻訳できない人間の条件なのである。しかもそれが、現実のわれらの生存を厳粛に規定している。この宿業因縁の圧迫から解放しようとする要求が、「浄土を求めさせる要求」の深みにあるのではなかろうか。

本多弘之

主 催： 親鸞仏教センター（真宗大谷派）

〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目19-11

TEL 03-3814-4900 FAX 03-3814-4901

E-mail [shinran-bc@higashihonganji.or.jp](mailto:shinran-bc@higashihonganji.or.jp)

URL <http://shinran-bc.higashihonganji.or.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/shinran.bc>

親鸞仏教センター

検索

click

## 迷いの自覚とは気づかされて歩いていくこと

もう一回やり直すということを繰り返さざるをえないのは、迷っている証拠なのです。そこが難しいところで、「悟後の修行」という言葉が禅のほうにあるのです。悟ったから終わりということはない。悟ったところはまだ修行がある。修行ということは、生きている事実には、乗り越えなければならない課題が常に与えられてくるということです。

ですから、迷いの自覚ということは、単なる過程ではなくて、気がつかされて歩いていくということです。だから不思議です。「菩提」は「道」とも翻訳する。道というのは、言うならば過程です。それが同時に覚りという意味をもつ。だから、覚って終わりというのではなくて、覚りから始まる。他力の信心の場合も、信心から始まる。信心で終わるのではない。そういうことが、曾我先生が言われた「仏教には入門はあるけれど、卒業はないのだ」ということだと思うのです。卒業はないというのは、どういうことだと。迷っている側からすると意味がわかりませんが、信心に触れてみると、本願力のはたらきをいただくことと、我々が煩惱の生活をしていくこととは、矛盾しながら重なっている。歩いていくというと、過程みたいですけど、念々に出遇いつつ生きていくということなのです。出遇った、それでお終いではない。出遇ったところから出発して、出遇いつつ生きていく。そういうあり方を、智慧という言葉で教えてくださるのだろうと思うのです。信心の智慧という言葉で。

それは、「智慧、大海のごとし」。つまり、如来の智慧が開く世界は大海のごとくである。如来の智慧、これは我々が尋ねようとしても、我々の分限からは尋ねることができないほど大きな智慧であると。大悲が智慧という意味をもつ。つまり、光は智慧の相だと言われていて、阿弥陀の光は尽十方無碍光、あらゆる世界を無碍に照らすのだと。「廣大無辺際」とも言われますけれど、そういう世界を如来の智慧はもっていると言うのです。

(『親鸞仏教センター通信』第65号〈第106回「親鸞思想の解明」〉より)

## 会場案内図



### 東京国際フォーラム

- JR 有楽町駅より徒歩1分

東京駅より徒歩5分 (京葉線東京駅と地下1階コンコースにて連絡)

- 東京メトロ有楽町線 有楽町駅と地下1階コンコースにて連絡

### ビジョンセンター東京

- JR 東京駅 八重洲南口 徒歩4分

(地下街 5番出口 徒歩3分)

- 東京メトロ銀座線京橋駅 5番出口徒歩1分